



集会アピール (案)

長良川河口堰のゲート開放を！

私たちは、今年6月、「第30回全国豊かな海づくり大会 ぎふ長良川大会」にあわせて「市民による『豊かな海づくり大会』」を開催し、長良川の上流・中流・下流から伊勢湾にいたる課題を見つめ、熱く議論しました。その中で、私たちは「豊かな海につながる豊かな川としての長良川を復活し、次世代に手渡していく責任」を深く心に留めました。

本日、20年に及ぶ調査を続けた「長良川下流域生物相調査団」からの報告を聴き、長良川河口堰が長良川に与えているダメージの大きさを、改めて確認しています。

長良川河口堰ゲートの試験開放を求める声は、今や流域で澎湃と沸き起こっています。一刻も早く試験開放を実施させ、常時開放へとつなげていきたいものです。

長良川河口堰は完全な人工構造物だからこそ、容易にゲート開放ができます。

現在、全国で計画中のダム等の「見直し」が言われていますが、すでに完成・運用している長良川河口堰も見直されるべきです。

運用満15年経って本来の目的である水源開発で開発されたはずの都市用水は、ほんの僅かしか使われていません、いつでも他の水源に変えられます。「洪水対策として浚渫を行う。その結果、塩水がより上流まで遡上し、農業塩害が発生する」との説を裏付ける実証データはありません。

おりしも今秋、生物多様性COP10が、名古屋で開催されます。まさに会議の会場の足元で、日本政府の施策によって生態系破壊が進行しているのです。この現状を放置しては、この国際会議は色褪せてしまいます。COP10開催前に、関係諸機関が、長良川河口堰の試験開放に向けて、協議し、努力することを強く求めます。

ここに集った私たちは、「『清流』の名に値する、未来に手渡したい長良川」を取り戻していくことの大切さを、また噛みしめました。長良川の再生に向けた第一歩として、速やかな河口堰開放を実現をさせていく決意を新たにしました。

流域の、そして全国の心ある皆さん、ともに「長良川河口堰ゲート開放を！」の声を大きく上げていきましょう！

2010年7月26日

長良川河口堰－失われた生態系と回復へのシナリオ報告とシンポジウム
参加者一同